



9月1日は防災の日

災害に備えて



9 月1日は「防災の日」、8月31日から9月5日までには「防災週間」です。「防災の日」は、台風や豪雨、豪雪、洪水、高潮、津波などの災害について認識を深め、これらに対して備えることで災害の未然防止と被害の軽減を図る日とされています。この機会に、災害に対する日ごろの備えを改めて見直してみましょ。

日ごろからできる防災対策

災害による被害をできるだけ少なくするために、日ごろからの備えが重要です。

非常持ち出し品の準備を

大地震等の災害が発生した場合、消防や警察などの救助隊がすぐに駆け付けられるとは限りません。最低限の生活を維持できるように、各家庭の状況に応じて必要な物を備えましょう。また、すぐに持ち出せるよう袋に入れ、目に付く場所に保管しましょう。

■非常持ち出し品チェックリスト

- 貴重品（預金通帳など）
 - タオル・下着・靴下など
 - 食品
 - （カップめん、缶詰、乾パンなど）
 - 懐中電灯
 - 携帯ラジオ
 - 救急医薬品・常備薬
- 小さな子どもがいる家庭は…
- ミルク
 - 紙おむつ
 - ほ乳びん など



家具を固定して安全なスペースを

家庭でできる最も手軽で有効な地震対策

は、家具の転倒・落下を防ぐことです。

家具が倒れたり落ちてきたりすると、体に当たってけがをするだけでなく、割れた食器が散乱したり、避難経路をふさいで逃げ遅れの原因となるため、とても危険です。背が高く重量のある家具は壁に固定するなど、事前にはっきり対策をとっておくことが重要です。

避難所の確認を

現在、30カ所以上の公共施設等を避難所として指定していますが、地震や豪雨などの災害の状況により避難所が変わることもあります。いざというときに慌てないように、指定避難所までのルートや、途中にある石垣、ブロック塀などの危険箇所を確認しておきましょう。

お持ちですか？

美郷町防災お役立ちガイド

「美郷町防災お役立ちガイド」を、平成24年度に全戸配布しています。「美郷町地震防災マップ」や「美郷町災害ハザードマップ」と合わせてご利用ください。なお、ホームページからもダウンロードできます。



町住民生活課 環境安全班

☎0187(84)4903

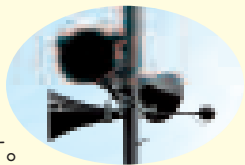
防災行政無線「今何て言った？」

防災行政無線の内容を確認したいときは、以下の番号にお電話ください。

☎ 0187(85)3981

☎ 0187(85)3982

放送内容を聞くことができます。



申請はお済みですか？

自主防災組織活動費補助金

自主防災組織の育成・強化、防災意識の高揚および円滑な協力体制づくりを支援するため、自主防災組織活動費用の一部を助成しています。申請期限は平成25年度までとなっていますので、ぜひご利用ください。

対象者 ● 自主防災組織

対象事業 ● ①災害時要援護者の支援

②緊急連絡網図の作成

③訓練等の実施

④空き家対策

⑤見守りチーム活動

補助金額 ● 基本額と世帯割の合算額

①基本額 1組織につき10,000円

②世帯割(申請年度の4月1日現在の組織内世帯数) 1世帯につき300円

※申請方法など詳しくは、下記までお問い合わせください。

☎ 町住民生活課 環境安全班

☎ 0187(84)4903

木造住宅耐震診断・耐震改修

木造住宅の耐震診断・耐震改修に補助金を交付しています。詳しくは20ページをご覧ください。

自主防災アドバイザーを派遣します

こんな悩みはありませんか？

- 「自主防災組織」はあるけど、普段は何をしたらいいのか…
- 実際に災害があった場合、どんな行動をとったらいいのか…
- うちの町内でも「自主防災組織」を結成したい
- 町内みんなで防災意識を高めたい

秋田県では各地域に「自主防災アドバイザー」を派遣し、地域の防災活動が活性化するように支援しています。

支援内容 ●

- ・ 自主防災組織の結成や運営
- ・ 避難誘導、救助などの各種訓練
- ・ 防災マップなどの作成
- ・ 防災意識の普及・啓発

派遣料金 ● 無料

申込方法 ● 申込書に必要事項を記入のうえ、下記まで提出してください。申込書は秋田県ホームページからダウンロードできるほか、町住民生活課でも配布しています。

☎ 秋田県総務部総合防災課 ☎ 018(860)4564

<http://www.pref.akita.lg.jp/>



美郷町自主防災組織防災講演会

7月26日に美郷町公民館で自主防災組織防災講演会が開催され、町内の自主防災組織の代表など約70名が参加しました。講師を務めたのは、秋田県自主防災アドバイザーの柴田廣英さんと秋田大学地域創生センターの鎌滝孝信准教授の二人。

柴田さんは、自分の身を守る「自助」、地域での助け合いである「共助」、自治体や消防などによる「公助」の災害時対応について説明し「災害発生時に核となるのは自主防災組織などの共助。そのためには、平常時の備えや災害時の対応について、家庭や地域で事前に話し合うことが重

要になる。さまざまな年代や業種の人たちが語り合えば、地域に即した対策が見えてくる」とアドバイスしました。

鎌滝准教授は、過去に秋田県内で発生した地震や、今後警戒が必要な地震についてスライドを使って説明。「災害時には自分の命は自分で守ることが必要」とした上で「正しい知識を身に付け、災害に正しく備え、対処することが重要。幼少時から防災教育を実施したり、学校や企業等と連携して避難訓練を行うなど、防災も地域の文化の一つとして根付くよう、今後も活動に取り組んでほしい」と激励しました。



■ 柴田廣英さん



■ 鎌滝孝信准教授

